

各地からの便り

北森カレッジ新校舎落成式

【上川中部森林管理署】

令和3年4月9日（金）、昨年4月に開校した道立北の森づくり専門学院の新校舎落成式が行われ、上川中部森林管理署長が森林管理局長代理として出席しました。

これまでの道立林産試験場の庁舎内での学び舎から、敷地内の隣接地に地元木材をふんだんに使った新校舎が2月に完成し、4月から供用を開始し、2期生の入学式に合わせた落成式となりました。



左から、和泉学生会長、竹内道議、阿部会長、佐藤上川総合振興局長、村田道議、寺田学院長

その後、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した中で、知事の式辞（代読）に続き、来賓

の祝辞、最後に学生代表のあいさつで閉式となりました。

新校舎は、木造2階建てで、エントランスホールと機械室棟が配置されています。

1階に職員室・実習室、2階に基礎教室をそれぞれ南側に配置し、四季の太陽光を取り入れ、変化のある光の環境で静かで明るい居室の環境が実現されています。

主要構造部の仕上げは、全て北海道産木材が利用され、構造フレームはカラマツ無垢材を加工したコアドライ材とトドマツ・カラマツ材のCLTが併用されており、小径木であるコアドライ材の使用で、森の中のような木立するリズム・木の繊細さと美しさを感じさせ、また、エントランスホールの吹き抜けの大きなスパンも、小径木のコアドライで張弦梁架構を構築し、ハイサイドライトからの光で森の中の木漏れ日のような光がホール全体に降り注がれる校舎でした。

局長が本局勤務の若手職員と懇談

【北海道森林管理局】

令和3年3月25日（木）局長、次長、総務企画部長、調査官、総務課長の幹部職員と令和2年度に入庁した本局勤務の高卒程度

一般職採用の若手職員9名との間で懇談会を開催しました。若手職員は一年間本局で勤務し、4月期の人事異動で道内の各森林管理署、森林事務所に配属になります。

局長からは「行政官として色々な意見を聞いて調整する」「積極的に挑戦する」など現場勤務での心構えや食生活など生活面でのアドバイスをしました。

次長からは「良いときも悪いときもある、相談すること、ときには我慢することも必要」。総務企画部長からはその土地の食や風景、歴史などに触れ楽しむこと、総務課長からは地域の人の関わりの大切さなど、これまでの経験を踏まえ様々な話がありました。

若手職員の一人ひとりから一年間の本局勤務の感想や思い出などが話され、新たな配属先では「森林づくりの技術を習得したい」「ドローンを活用して、色々なことに挑戦してみたい」といった意気込みのほか、「仕事での相談は誰にするのか」「森林事務所ではどのようなことを意識して仕事をすべきか」などの質問があり幹部からアドバイスを行いました。

最後に局長から「森林管理署や事務所は地域の窓口、いつでも対

応できるようにするのが大切」と激励しました。

今回の懇談は、若手職員が新たな職場で安心して業務に取り組む、国民や地域の人からの求めに添えていけるように企画しました。

これから、希望の翼を広げて元気に活躍してほしいと思います。



懇談の様子

利尻町教育委員会 森林環境教育

【宗谷森林管理署】

令和3年3月13日（土曜日）に宗谷総合振興局森林室主催による利尻町青少年リーダーの会「若葉」を対象とした木育教室が開催され、森林室と利尻森林官が連携して企画し、当日の講師を森林官が担当しました。今回のメインは森の素材を使った



作品と一緒に集合写真！

「おひなさま」じゆんです。
利尻島の森林にとって大切な話、木がどうやって伐られ、加工されるか、そして何に使われているかなどについて知ってもらいます。
次に、現在手入れが遅れている利尻島の暗い森林、後世に残したい豊かな森林を「森林官の想い」をもって紹介しました。
そしていよいよ木工工作のお時間です。シラカバとキハダの土台に松ぼっくりの体、ハンノキの顔にどんぐりやカラマツの実の帽子にシラカバの皮を使った扇子と笏（しゃく）・・・
森の素材を贅沢に使った工作を、匂いを嗅いだり、素材の色や形を楽しんだりしてもらいながらグルーガンと格闘しながらくつつけて、個性豊かに仕上げていました。

この森林教室等で森林に興味を持ち、森林に入ってみる動機になり、将来は島の森林や林業のことを漁業と同じように、真剣に考えてもらうことに繋がってほしいと思います。

**原木保管施設（ストックヤード）
を下川町と共同で整備**

【上川北部森林管理署】

原木保管施設の整備は、当署と下川町で締結している下川地域森林整備推進協定に基づく共同事業団地の取り組みを進める中で、以前から要望があったところです。

このような中、「コロナ禍の影響により木材需要が低迷し、地域の製材工場の木材は動きが鈍くなったため、工場土場は満杯となり、当署の委託販売材も需要不振のため山元土場に余裕がなくなっていたことや、下川町においては森林の循環利用伐採と再造林に影響が出ないよう遊休の町有地約5千平方メートルを活用し、下川町と共同で原木保管施設として整備しました。

このことにより、1. 木材需要者等は、国有林材と町有林材と一緒に品定めできる、2. 山へ原木を見に行く労力や時間を省くこ

とができる、3. 市街地に隣接しているため、積雪期の除雪経費の削減が期待できる、などのメリットがあります。
当署においても、山元土場は制約が多く林道除雪経費も掛かるため、原木保管施設のメリットは大きいものがあります。
今後は「民国協調出荷」を想定した取り組みや原木保管施設を活用した勉強会の開催を検討し、地域の木材需要者へ安定的な木材の供給と情報発信をしていきたいと考えています。



グラブによる極積み作業

斜里町立知床ウトロ学校で防災授業を実施

【網走南部森林管理署】

令和3年2月8日（月）斜里町立知床ウトロ学校において、22名を対象に防災授業を実施しま



工事現場内での説明の様子

した。
知床ウトロ学校では日頃から防災教育に力をいれており、防災授業の依頼を受けました。
前半は、山地災害を含む自然災害やウトロ市街地に設置された治山等の防災施設の紹介、ウトロ地区のハザードマップの内容等について説明しました。
後半は、治山工事の現場見学を行い、工事の目的や設計内容について説明し、斜面に設置する資材等にも実際に触れてもらいました。
質問の時間では、「土石流について教えてほしい。」等、子供達から積極的に質問が出て、防災に対する関心の高さを実感しました。
最後に子供達からお礼の言葉をいただき、授業は無事終わりました。



第44回 全国育樹祭 北海道 2021

つなごう未来へ この木 この森 この緑

芽森（めもりー）とリン子のコラボ育樹祭漫画 ※北海道森林管理局では、全国育樹祭を紹介する漫画を作成しました。

令和3(2021)年10月9・10日 北海道で全国育樹祭が開催!

北海道の森林づくりシンボルキャラクター 芽森(めもりー)

リン子さん

つわ〜っすこいつ、どこで育樹祭って何〜?

育樹祭を知るために、まずは全国植樹祭について。

全国植樹祭は、昭和25(1950)年から、国民の森林に対する愛着を培うために毎年開催されている行事だよ。

天皇陛下御下によるおき植え、全国各地からのご参加による記念植樹が行われるんだ。

全国植樹祭でおき植えされた樹木を、皇族殿下がお手入れし、おかげで育樹活動が行われるんだ。

北海道では、昭和36(1961)年に、第12回全国植樹祭が開催。

これを皮切りに、昭和62(1987)年に、第11回全国育樹祭が開催された。

ここに、60年

さらには平成19(2007)年には、第58回全国植樹祭が開催されたことを皮切りに、北海道で全国育樹祭が開催なんだね!!

令和3(2021)年10月9・10日、北海道で全国育樹祭が開催なんだね!!

ほくは、この天気で生まれたんよ

北海道は「木育」発祥の地

平成17(2005)年3月に北海道で、「木育」という言葉が生まれたんよ!

「木育」とは子供頃から木を使うことわ...

「木育」発祥の地

約300名の木育マスターが活躍している。

木育マスターは北海道が認定する木育を普及させる専門家だ。

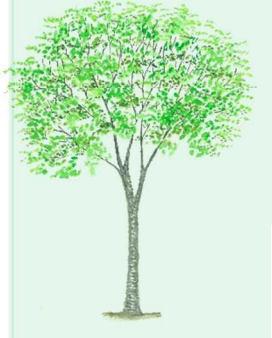
人と森林との関わりを、主体的に考える豊かな心を育むことだよ。

そしてこの「木育」は、令和3(2021)年の全国育樹祭を北海道5しい大会にするための大切なコンセプトなんだ。

第44回 全国育樹祭 北海道 2021 つなごう未来へ この木 この森 この緑

みんなで育樹祭を盛り上げよう!!

作成：林野庁 北海道森林管理局 (絵・編集：平田美紗子) 発行：(公社)北海道森と緑の会 監修：北海道水産林務部森林環境局



詳しくはホームページをご覧ください。



- (1) お手入れ行事
10月9日(土曜日)
苫東・和みの森(苫小牧市)
- (2) 式典行事
10月10日(日曜日)
北海道立総合体育センター
・北海道たえーる(札幌市)

第44回全国育樹祭 (北海道2021)

2021(令和3)年10月9、10日(北海道で1987(昭和62)年以来34年ぶりとなる「第44回全国育樹祭」が開催されます。全国育樹祭とは継続して森を守り、育てることの大切さを普及啓発するために、1977(昭和52)年から全国各地で毎年開催されている行事です。皇族殿下による樹木のお手入れや、参加者による育樹活動が行われます。

広報 「北の森林 国有林」4・5月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70番
I P 電話 050-3160-6300
電話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木「アオダモ」

アオダモの木で作ったバットは、粘りがあって割れにくく、軽量で振りやすい。そのため長年プロ選手に愛用されてきました。

アオダモの花のイラストを表紙の月数字の横に載せました。